

平成十六年度施政方針

去る三月十日に開かれた三月定例議会で、金山町長は、平成十六年度の施政方針を述べ、まちづくりの取り組みを表明しました。

平成十六年度の予算の提案にあたり、平成十七年一月十一日、南あわじ市発足に伴い、緑町最後の予算編成であり、改めて、歴史の重みを感じながら、その重要性を再認識し、悔いのない最後の仕上げをすることが、今求められているところであり、このような観点に立って予算編成を行いましたので、ここに所信を明らかにし、議員各位をはじめ町民の皆様に格別のご理解とご支援を賜りたいと存じております。

我が国は、イラクへの自衛隊の派遣、長引く景気の低迷や、雇用状況の回復のきざしが見えず、先行きは、全く不透明のままであり、むしろ閉そく感が漂い、経済活動を中心に、私達の生活は一段と厳しさを増しています。

こうした中での平成十六年



▲施政方針を述べる金山町長

ろであります。引き続き、本年度もサンライズ淡路・淡路ふれあい公園の整備、広田梅林の拡張整備など、事業進展をさせたいと予算措置をしたところであります。

また、人づくりの一環として実施している町民海外派遣事業を継続して参ります。英会話を含め語学力の重要性は、国際化の進展に伴って、ますます高まっており、次世代を担う中学生に海外での体験を通して、国際感覚を身に付けていただくこととしていきます。地域を担う人材育成を大切にしていかなければならないと存じています。

●地球温暖化防止対策

地球温暖化防止対策の一環として、クリーンエネルギー

度政府予算は昨年度に引き続き、税政改革や歳出合理化を盛り込んだ「改革断行予算」が継続されているところであります。総額では、〇・四％増の八十二兆一千九億円となっておりますが、特殊要因を除いた実質ベースでは、前年度を下回り、三年連続の緊縮型予算となっております。

国の税収は、企業の業績回復による増収が見込まれているところでありますが、三位一体改革に伴う所得譲与税の創設の影響で〇・一％の減となっております。歳入に占める税収の割合は五〇・八％と過去最低となり、歳入の半分を辛うじて確保するという危機的な状況にあります。財源補てんをするための国債発行は〇・四％増の三十六兆円を越え四四・六％の比率となり、過去最高を更新し

の利用促進を支援し、環境に負担の少ない循環型社会への変換と環境保全意識の高揚を図っていくため、引き続き住宅用太陽光発電システムの設置に対し、助成をしていくこととしています。

●地域コミュニティセンター建設

地域コミュニティセンターの建設について、山添地区より要望が出されたところであり、設計費については、十五年度補正予算で対応させていただいておりますが、山添地区は、人口急増地区であり、既存の施設では対応できない状況であります。地域コミュニティセンター設置要綱を適用して対応することとしています。

●商工・観光振興対策

緑町は、観光資源に乏しいのは承知しているところでありますが、緑あふれる豊かな自然や新鮮な農産物を貴重な財産として守り育てて参りました。本年も、緑町が発するイベントとして、4・29グリーンフェアを開催し、淡路地域はもろろんのこと、全国に向けたPRをして参りたいと存じて

ているところです。

地方財政計画では、過去二年続きで縮小されてきたところでありますが、総額で前年度比一・八％減の八十四兆六千七百億円と三年連続で減少しています。特に注目すべきは、出口ベースの地方交付税総額は、六・五％減の十六兆八千九百億円と四年連続の減少となっております。通常収支の財源不足は、縮減された後でも十兆一千七百億円となり、財源対策債により手当てしたあと、国と地方が折半する現行ルールの三年間延長が決まったところであります。これらにより、地方行財政の「三位一体改革」で、地方交付税の見直しが掲げられているため、地方財政計画では歳出の徹底的な見直しがされ、交付税の縮減ともなっています。このことは、我々地方自

います。本年度は、「緑豊かな自然を未来へ」をテーマとして朝日放送ラジオの公開生放送で、「雀々・タージン・ゆりりんの木曜ねばーランド」を迎え、これまでとは一味違ったものにしたと、実行委員会において計画を練っていたいております。

●花と緑のまちづくり

淡路では、官民一体となつて実践活動に取り組んでいます。花いっぱい美しい島づくりに向けて、花づくりグループ活動を一層支援し、沿道緑化などを図り、花の持つ力で人の心を豊かにし、人と人との交流が盛んになることを期待しております。

●サンライズ淡路 淡路ふれあい公園

名実ともに、緑町の核施設として再出発しましたサンライズ淡路、淡路ふれあい公園は、大幅なりニューアル工事を実施し、見違えるばかりの美しさと、機能を備えた施設としてよみがえりました。去る二月十三日、リニューアルオープンをしたところであります。職員も一新してさら

治体には、歳出削減や行財政運営の一層の効率化が求められているのであります。

このような状況の下、本町においても税収が大幅に落ち込む状況下であり、自主財源の幅が益々狭くなり、厳しい予算編成を強いられるところでありますが、限られた貴重な財源をより一層効率的に活用し、最小の経費で最大の住民サービスの実現に努めた予算編成をしたところであります。

特に、平成十七年一月十一日より、南あわじ市として合併する本町にとっては、何を優先させて行動しなければならぬか、基金をどのように有効活用するかという視念に立って、生活基盤に必要な部分の整備が最重要であるとの認識の下に、これに重点配分することとし、合併に向けての準備を行いながら、一方、合併後は周辺部分となる立地の中で、地域として自立して存在することのできるための

なる発展を目指し、再出発を誓っているところであります。「スポーツ&ヘルシーリゾート」を柱としてやすらぎ、憩い、楽しめる施設にするため住民の皆様はもろん、全国にも発信して参りたいと存じています。

また、サンライズ淡路周辺の山林火災跡地に桜を植えているところですが、昨年引き続き、緊急雇用創出事業を導入して十一・五の下の草刈払および追肥を施したいと計画しています。

周辺整備として、県事業である快適の森整備事業により、森林整備、遊歩道、あづま屋などの整備を行い、県事業で実施できない部分との整合性を持たせながら、ふるさと創生事業で淡路ふれあい公園とその周辺を整備し、サンライズ淡路、淡路ふれあい公園を含めた周辺散策を可能とした一体的利用を図り、気軽に森林と触れ合うことができる里山づくりを進め、緑町の核施設としての整備を致します。

●地域産業の活性化

人が集まることこそ、活性化

整備を進める必要があり、
一つ、活力に満ちたまちづくり

二つ、環境、健康、福祉優先のまちづくり

三つ、行政サービス向上のまちづくり

の三つの柱のもとに予算編成をしたところであります。

以下、重要な施策について概要を申し上げます。

活力に満ちたまちづくり

●活力あるまちづくりの推進
まず、ふるさと創生事業であります。昨年、住民の皆様から提案いただいた内容を絞り込み、五つの事業を実施することで進めてきております。それは、①サンライズ淡路・淡路ふれあい公園の整備②広田梅林の拡張整備③防災設備の整備④福祉施設・防災公園整備のための環境整備⑤倭文地区へのADSL誘致であります。

既に、事業内容精査の中で、一部十五年度補正予算において対応させていただいたことへの第一歩であります。夏に行う「みどりどんとこい祭り」も商工会振興事業補助金として、引き続き支援することとしています。また、既存の小規模事業者の経営や技術改善を行うための経営改善事業を支援しつつ、経営近代化設備投資借入金に対する利子補給も引き続き行うこととしています。

また、行政合併が行われることにより、商工会も一年遅れではありますが、合併を目指しており、この準備に助成を行うこととしています。

昨年、商工会が実施いたしましたプレミアム付商品券事業は、好評を得たところであります。購買力の町外流出防止や、更なる個人消費の喚起を促すことを目標に、本年も実施したいとの要望が強いところであり、補助対応して参りたいと思っております。

みかんの木オーナー制度は七年目を迎え、「みかんの木のオーナー協会」も二年目に入ります。着実に進展しているところでありまして、都市と農村の交流型農業基盤の充実を目指し、引き続き支援していくこととしています。